

私達の町興し!

校長官舎にひつりりと眠っていた雨情と響名のある「歌謡」の額

その額の由来は、だれも知りませんでした

作画 西島淳之介

抱いて興味を抱いた私達は去年の平成四年七月から調査を始めました

野口雨情の重筆の額と確信しました

町の軒の民家で、もつと長い歌謡で同じ筆跡の「甲佐歌謡」という額を見つけたのです

しかし、なぜ野口雨情なのか? なぜ甲佐町なのか?

私達はさらに詳しく調査を続けたいと思えます

「町の歴史や文化を町興しに生かそう」

これをテーマに、僕達はビデオ作品づくりを始めました

ディレクター 山中 裕士くん

素朴な感情性で知られる歌謡詩人、また、詩作の合間に全国各地を巡り、民謡や童謡の普及につくしたと言われる

野口雨情(明治十五年-昭和二十年)

船頭小唄、波浮の港、赤い靴じゃぽん玉十五夜お月さん、証城寺の狸囃子七ツの子こね虫、うさぎのダンス、雨ふりお月さん、等々

僕達はまず本を調べました。しかし「熊本県まで行つてみる」このわずかに一行の記録が見付かっただけでした

聞いたことないなあ

町の人も甲佐歌謡の存在を知りません

実は雨情は第二次世界大戦のさ中熊本を訪れていました。昭和十六年、戦火を免れた。こゝ甲佐の豊かな自然に感動し、自筆の書をしたのでした

「カラクリ!」

なんのくじけて、たまるか!

甲佐町畜舎

甲佐小唄じゃなかね? たしか曲もついでつたよ

ええっ

知つてびっくり、意外な事実、やがて生き証人も見付かりました

桜の丘 老人ホーム

肥後の甲佐は、肥後各所、ソライトセ、ヨイトセ

甲佐歌謡はアレンジされ甲佐小唄となつたのです

踊りまで「ソライトセ」おはあちゃんですケド、昔は有名だったのネ!

えーとネ... 振り付けた人はたしか甲斐文子さんとか...

カメラ担当 旭 順次くん

僕達は早速旭くんの「おはあちゃん」を取り、踊りや歌を録音しました

記録によれば、昭和三十七年までは、祭りで踊られて

今日までの高校生も、ナカナカやるじやない

私達も来年踊つてみたいわねえ

えー、今回は額から順へ、そして踊りまでと予想外の収穫がありました

構成会議

僕達は果たして今回のテーマ「町興し」をやれたのでしょうか?

うんたしかに復活させただけは「よかつたね、終わらだよね」

でも... だからって、これ以上私達に何が出来るって言うの?

それは...

たしかに、このままでは中途半端... 僕達は最終段階でつまつてしまひました

「町の人に判断してもらおう」これが僕達の結論でした

甲佐町役場

そうだ! だったら、町の人に踊りを、見てもらおうよ!!

わかりました、そいつことでしたら、盆踊り大会で披露してみませんか?

ありがとうございます、こせします

放送部顧問 溝口先生

甲佐小唄は採譜され、振り付けも復活

七月二十五日の本番に向け、町のコーラス部、婦人会、三味線の先生、踊りの先生と、たくさんの方々の協力を得て練習に励みました

「はいもど、大きく振つて」

みなさん、私達は甲佐高校放送部です

私達は皆さんの協力で、忘れ去られていた甲佐小唄を復活しました

三十年ぶりの踊りをどうぞ、ご寛くください!

鮎祭り当日

肥後の甲佐は、肥後の甲佐は、肥後各所、ソライトセ、ヨイトセ、おやん落ち、鮎見においでサテ、ソライトセ、ヨイトセ、ヨイトセ!

私達も来年踊つてみたいわねえ

町の人々の関心も高まり、野口雨情の記念碑を建てようという動きも生まれ

祭りの運動会で、甲佐小唄を踊るところも出て来ました

一つの目標を持ち行動した青春のページは、これからの人生の貴重な財産として、私達の心の中にいつまでも残ることでしょ

「コーナー はいスタート」

みなさん、こんにちわ、私達は今日もまた私達に続く部員達の新たなチャレンジは続いています

この甲佐小唄復活過程をまとめたビデオレポート「水辺の詩」は、高校放送コンテスト県大会で最優秀賞に輝き、全国大会で五位に入賞した